

「人間総合科学演習：大関ゼミ」

看護学科教授 大関 信子

人間総合科学演習では、4年間の大学での学びの土台となるスタディ・スキルを修得することが目的となります。今回は、「親と子を科学する」というテーマでスタートしました。昨今、日本社会(又は国際社会)の中で親と子に関連した何が問題となっているのかを学生はグループで図書館の新聞や雑誌から情報収集しました。その結果、子供の虐待や貧困、母子癒着などの問題が抽出されました。集めた情報を教室で発表し、ディスカッションにより現象の多様な背景や対策等を理解しました。

ゼミの後半からは、「しつけと虐待の違いは何か」「子離れできない親」「子どもの貧困は誰の責任か」等自分のテーマを絞り込み、個人で図書館の著書や学術論文などで更なる情報収集を行いました。その情報を教室でプレゼンし、ディスカッションにより多面的で独創性を持つ独自の思考を導き出し、小論文の作法に則り活字にしていきました。学士号を持つ人間が最低限必要とされるのが、この図書館での情報収集、小論文の作法に則った論述能力です。

大関ゼミでは、基本的には図書館から情報収集をする練習を最優先し、学生には虚偽やエビデンスに欠ける情報の入り混じったインターネットによる情報収集は禁じました。学士号を目指す、研究者の土台となる学習には、図書館をフルに活用する方法を身につけることが大事だからです。学問の土台となる情報は、図書館の中にあります。

学生には、わからないことは図書館のスタッフに聞くように指導しました。図書館を使いこなせることなしに、大学での学び、後の大学院の学びは始まりません。図書館は学問の事始めの土台となるところです。自分の知的好奇心を満たすべく図書館を活用し、学問の作法に則り小論文で自分の意見を活字にしていくなかで楽しさを学生さんに発見してもらいたいと思いました。学生の質問にご丁寧に対応して下さった図書館の方々に心から感謝申し上げます。

大学時代からよく通っている本屋さん（今年8月）▶

